

平成 31 年度 東京都内湾水生生物調査 1 月鳥類調査 速報

●実施状況

令和 2 年 1 月 23 日に鳥類調査を実施した。天候は雨～曇で、気温 7.0～7.4℃、北の風、風速 0～2.0m/sec であった。調査当日は大潮で、干潮が 10 時 04 分(106cm)、満潮は 15 時 28 分(172cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
作業時刻	8:13-9:16	9:38-10:26	11:23-12:28
天候	雨	雨	曇
気温(℃)	7.3	7.4	7.0
風向	北	北	-
風速(m/sec)	2.0	1.5	無風
備考	第六台場は木々の葉が落ちていて、奥までよく見通せた。	潮が高く、最干潮時刻でも干潟の干出は非常に少なかった。	潮が高く、調査終了頃には潮が満ちてきていた。

●主な出現種等

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
数が多かった	スズガモ(516 羽)	スズガモ(216 羽)	スズガモ(1110 羽)
鳥類上位 2 種	カワウ(438 羽)	ホシハジロ(96 羽)	ハマシギ(322 羽)
その他の鳥類	カモ類(カルガモ等)、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、アオサギ、オオバン、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、トビ、ハクセキレイ	カモ類(コガモ等)、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、コサギ、オオバン、シロチドリ、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハクセキレイ、タヒバリ	カモ類(クロガモ等)、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、アビ、カワウ、ウミウ、アオサギ、コサギ、クロツラヘラサギ、シロチドリ、シギ類(ミユビシギ等)、カモメ類(セグロカモメ等)、オニアジサシ、ミサゴ、オオタカ、ノスリ、カワセミ、ハクセキレイ、タヒバリ
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 4 種を確認(ウミアイサ、オオバン、イソシギ、トビ)。 ・第六台場ではカワウが繁殖活動のため集まる。アオサギはまだ少ない。 ・鳥の島護岸付近の海上でカモ類が休息。 ・海浜公園の人工物でユリカモメが休息。 ・護岸でイソシギが採餌。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 6 種を確認(コサギ、オオバン、シロチドリ、イソシギ、ミサゴ、トビ)。 ・ヒドリガモ、マガモ、カルガモが護岸で休息、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモが海上で遊泳。 ・シロチドリが干潟で採餌。 ・カワウ、カモメ類が干潟で休息。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 14 種を確認(クロガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、コサギ、クロツラヘラサギ、シロチドリ、タシギ、イソシギ、ミユビシギ、ハマシギ、ミサゴ、オオタカ、ノスリ、カワセミ)。 ・カモ類が海上で遊泳。スズガモの個体数が少ない。 ・クロツラヘラサギが護岸で休息、シギ類が干潟で採餌。

<お台場海浜公園>

○調査地点の状況

第六台場と鳥の島ではカワウが営巣を始めていた。



○出現種(カワウ・アオサギ)

カワウは婚姻色や飾り羽が表れた個体が多く、第六台場では166巣、鳥の島で22巣の営巣を確認した。第六台場ではヒナの声が聞こえ、巣内に2羽のヒナが見られた。アオサギの個体数は少なく、第六台場の林で5羽のみ確認された。



○出現種(スズガモ、ホシハジロ、ユリカモメ)

工事関係のフェンスが設置された、お台場海浜公園の浜辺では、スズガモとホシハジロが砂浜に上陸して休息するのが確認された。両種とも潜水採餌し、泳いでいる姿を見る事が多いが、安全な陸地で休息する事もある。ユリカモメはデッキの手すりに群れでとまっていた。



<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

最干潮時刻だが、干潟の干出は少なかった。



○出現種(ヒドリガモ、マガモ、コガモ、ハシビロガモ)

水面と護岸にカモ類が多く、10種が確認された。ここに挙げた4種の水面採餌ガモは主に冬鳥として飛来し、海岸や河川、湖沼などに生息する。ヒドリガモは陸地の上で草地で採餌することも多い。



ヒドリガモ (メス)



マガモ (オス)



コガモ (メス)



ハシビロガモ (オス)

○出現種(ミサゴ)

主に魚類を捕食するタカ類で、海岸や大きな河川、湖沼など水辺に生息する。環境省レッドリスト(2019)で準絶滅危惧種(NT)、東京都レッドリスト(2010)で絶滅危惧種 I B 類(EN)に指定されている。水面に突き出した杭にとまる1羽が確認された。



○干潟利用状況

カワウ、アオサギ、ユリカモメ、セグロカモメが干潟で休息していたほか、シロチドリ 5羽が干潟で採餌していた。シロチドリは環境省レッドリスト(2019)で絶滅危惧 II 類(VU)、東京都レッドリスト(2010)で絶滅危惧 II 類(VU)に指定されている。



<葛西人工渚>

○調査地点の状況

潮が高く、調査終了頃には満ち潮により干潟は狭まっていた。



西側の地点より南西方向を見る



○出現種(ウミアイサ)

冬鳥として海上に渡来し、潜水して魚を捕食する。雌雄とも後頭部に長い冠羽があるのが特徴。海上でメス1羽が確認された。本種は東京都レッドリストで情報不足(DD)に指定されている。



○出現種(ウミウ)

北海道から九州で局地的に繁殖し、主に海岸に生息する。東京湾での個体数は少ない。カワウの群れに混じり東なぎさの消波ブロックで休む1羽が確認された。



矢印の1羽がウミウ、他はカワウ

○出現種(オオタカ)

北海道～九州の樹林で繁殖し、冬は全国の農耕地や樹林のほか市街地でも見られる。東なぎさの樹上にとまっている幼鳥1羽が確認された。本種は環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリストで絶滅危惧 I A 類(CR)に指定されている。



○干潟利用状況

干潟で採餌・休息するシロチドリとハマシギ、ミュビシギの群れが確認された。ハマシギは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリストで準絶滅危惧(NT)に指定されている。ミュビシギは東京都レッドリスト(2010)で絶滅危惧種 I B 類(EN)に指定されている。



<その他>

○ウミネコの繁殖

令和元年 5 月 22 日、6 月 19 日の調査で繁殖を確認した構造物上では、5 羽のウミネコ成鳥が確認されたが、営巣の兆候は見られなかった。



ウミネコが営巣する構造物



ウミネコ成鳥

<トピックス>

- 初記録 2 種 -

本調査で初記録となる、アビとオニアジサシが葛西人工渚で確認された。アビは冬鳥として九州以北に渡来し、主に海上に生息する。東京湾では三番瀬や千葉市の海岸部等で稀に記録がある。海上のスズガモとカンムリカイツブリの群れの中に混じって泳ぐ 1 羽が観察された。

オニアジサシは稀な旅鳥または冬鳥として渡来する。東京湾では多摩川河口、葛西、三番瀬、小櫃川等でごく稀に記録されている。最近では令和元年 10 月以降、三番瀬で 1 羽が不定期に観察されており、同じ個体が葛西人工渚にも飛来している可能性がある。東なぎさの干潟でウミネコ群中に 1 羽が確認された。



アビ



オニアジサシ